

～明治の文芸の足跡を辿りました～

神楽坂文芸散策“半日”

恒例なら外堀の櫻が満開の風情を楽しめるはずでしたが、あいにくにも冬のような小雨の中のスタートでした。

出発点は、神楽坂文芸散策の定番になっている JR 飯田橋駅です。総勢 15 名弱、元気に文芸の足跡を丁寧に辿りました。路地を歩き、街角を曲がり、階段や坂道を踏みしめると、書籍の活字が血の通った生活感として浮かび上がってきました。

日時：2017 年 3 月 27 日（月）1 時半～4 時半

費用：1,000 円（資料代、間食など）

集合：JR 総武線 飯田橋駅 西口改札口

参加者：13 名



神楽坂の象徴、毘沙門天の庭にて

順路

JR 飯田橋駅西口改札⇒甲武鉄道牛込駅舎跡石垣⇒牛込御門跡石垣⇒揚場町船着場跡⇒揚場町倉庫街跡⇒軽子坂荷運場⇒老舗料亭うを徳⇒神楽坂路地かくれんぼ横丁⇒芸者新道⇒泉鏡花旧居跡・北原白秋旧居跡⇒小栗横丁横道階段⇒神楽坂見番⇒毘沙門天⇒江戸居酒屋伊勢藤⇒東京理科大学森戸記念館⇒神楽坂裏道石畳⇒地蔵坂⇒牛込館跡⇒ユネスコ東アジアセンター⇒日本出版クラブ⇒江戸天文屋敷跡⇒江戸御家人住居中町⇒太田南畝住居跡⇒宮城道雄記念館⇒夏目漱石・田山花袋作品登場風景⇒尾崎紅葉旧居跡⇒小浜藩酒井邸跡⇒ラ・カグラ⇒赤城神社宮司話⇒東西線神楽坂駅

牛込駅

かつての甲武鉄道牛込駅のことです。現在の JR 飯田橋駅に隣接しています。石垣の向こうお店やさんが 2 軒ありますが、ここが牛込駅の入口駅舎のあったところです。ここから、外堀の水面と同じ高さにあるホームに向かう通路があったようです。



牛込駅は明治 27 年に開業し、その後国有鉄道の駅となり昭和初年まであったそうで、しばし昔をしのび観察をしました。

説明を受け、初めて牛込駅の存在を知ったという声、大勢の参加者から聞かれました。

牛込御門

江戸城牛込門の枳形門がありました。現在は、道を挟んで向かい合った 2 基の見附櫓の石垣が残っている。江戸城内から牛込方面へぬけるので、牛込御門というそうです。この門を出ると神楽坂となります。



この石垣は、阿波藩が築造しました。それにちなんで、神楽坂は夏に阿波踊りで賑ぎ合います。説明を受け、参加者は神楽坂と阿波踊りが繋がりました。

揚場町

飯田橋駅から神楽坂に向かい、最初の交差点を右に曲がった付近の外堀通りを揚場町といいます。夏目漱石の随筆「硝子戸の中」には、家族がここから船に乗り日本橋猿若町の芝居を 1 日ばかりで見物するとあります。



その場所に立ち、江戸の風情を残す明治の時代を錦絵を見ながら偲びました。錦絵と現在が連動し、参加者はタイムスリップした様に感じました。とても印象的で、しっかり記憶に残りました。

老舗料亭うを徳

尾崎紅葉が主宰する硯友社の新年会がここでありました。そのとき、紅葉の書生をしていた泉鏡花が座敷に出た芸者の伊藤すずに思いを寄せることとなったそうです。



これが婦系図の元で、後日鏡花はずすと、東京理科大学の近くに所帯をもちました。いかにも老舗の料亭、その風情を外から眺めました。

かくれんぼ横丁

「うを徳」の裏の通りが「かくれんぼ横丁」です。料亭に通う粹人が、辻を曲がると「かくれんぼ」のように姿を消す様から名付けられたといわれています。石畳の細い道が微妙に曲がっている迷路です。少々ですが足を踏み入れて、それを感じました。



芸者新道

かくれんぼ横丁からさらに神楽坂の通りの方向に、もうひとつ横丁がありました。芸者さんが料亭街を行き来していたので、ついた名前だそうです。

芸者新道への入口の勾配と階段は、江戸時代の神楽坂の大通りの傾斜がそのまま残っているそうです。確かに、江戸時代の錦絵には、神楽坂の中頃に階段が描かれています。



江戸の神楽坂、途中に階段がある

泉鏡花旧居跡・北原白秋旧居跡

神楽坂 2 丁目 22 番地東京理科大学の隣接地、この地に泉鏡花が 3 年過ごしました。いわゆる借家でした。その後、ここに北原白秋が住んだそうです。

神楽坂付近は、小説家と詩人が住むほど文化的な地であったことを感じました。

神楽坂見番

芸者衆の手配、歌舞音曲の稽古をするのが見番です。1 階が経理事務所、2 階が稽古場です。

参加者は、小説の世界でしか知らない見番を、目の当たりにしました。

この日は、お稽古の音は聞こえませんでした。

毘沙門天

よくご存知の神楽坂の名所です。江戸期から有名な場所でした。文学者があれこれ紹介しています。



有島武郎が、『骨』では「神楽坂の往来はびしょびしょにぬかるんで夜風が寒かった。・・・冗談口をたたきながら、毘沙門の裏通りへと折れ曲がった。」と描写しています。

田山花袋が『東京の三十年山の手の空気』で、「牛込で一番先に目にたつのは、または誰でも頭の残って印象されているだろうと思われるのは、例の毘沙門の縁日であった。・・・大蛇の見世物がかかったり・・・露肆(ろし)や植木屋の店も・・・出ている。」

小雨に始まる今回の神楽坂文芸散策は、毘沙門天にお参りするときは、雨があがりました。堂宇の前で記念写真を撮りました

太田南畝住居跡

太田南畝蜀山人は、江戸期中御徒町(現在の新宿区中町)で、天明期を代表する文人であり狂歌師です。この中町の通りの入口付近に住まっていたようです。その説明書きの掲示がここにありました。



掲示を掲げているのは、フルオンザヒルという中華饅頭屋さんでした。ここで、熱々の中華饅頭をハフハフしながら賞味し、小腹を満たしました。

宮城道雄記念館

中華饅頭のお店の隣に、宮城記念会館がありました。宮城道雄の「春の海」は、フランス人女流ヴァイオリニスト、ルネ・シュメーとの競演で世界的な評価を得ています。



記念館前の佐藤春夫の題字の石碑を熱心に勉強しました。また、宮城道雄の琴の世界に、しばし思いを馳せました。

中町の通り—夏目漱石・田山花袋が見た様子—

夏目漱石の「硝子戸の中」では、「喜いちちゃんは当時中町(なかちょう)の叔父さんの宅(うち)にいたので、・・・彼はある日・・・懐から二冊つづきの書物を取り出し・・・「これは太田南畝の自筆なんだが

ね。・・・」私は太田南畝という人を知らなかった。」とあります。

田山花袋の印象は、『東京の三十年山の手の空気』に記述があります。「中町の道—そこは納戸町に住んでいる時分によく通った。・・・富士の積雪が冬は目ざめるばかりに美しく眺められた。それに、その通には、若い美しい娘が多かった。今、少将になっているIという人の家などには、殊にその色彩が多かった。」

現在は、富士山は高層ビルに阻まれ見えませんでした。田山花袋のI少将のかつての敷地あとを見ました。

赤城神社

隈研吾さんの設計で、最近とみに有名になりました。前面がガラス張り、素敵な神社でした。江戸期より前、この地域を支配下にしていた大胡氏が群馬県の赤城山からお招きしたともいわれています。

当日は、風山宮司さんからそのような謂れのお話をうかがいました。大変気さくに対応して下さい、参加者一同感謝致しました。

反省会 神楽坂上竹ちゃん

赤城神社の宮司さんのお話をうかがった後の神妙な気持ちを胸に反省会をしました。総勢9名での懇親会です。

この店のオーダーは、タブレットに似た画面からします。ちょっと戸惑いながらも、目いっぱい料理と飲み物を注文しました。何しろビール一杯が180円と格安なのでお財布にやさしく、その分気持ち軽く懇談の話に花が咲きました。でした。

参加感想文

(東京都港区)

入会時に送られてきた会報で、神楽坂裏道散策があったことを知り、また企画があれば参加したいとの願いが叶いました。生れも育ちも神楽坂のリーダーの日本一の解説を聴きながら、至福の一時でした。

伊勢藤と理科大の先端研究棟が隣接するという、昔と今が上手く融合した神楽坂の魅力を堪能しました。素敵な街歩きを企画して下さいましたことに多謝。

(東京都杉並区)

昨夜からの雨も午後にはあがり、飯田橋に集まった13人は心に残る案内に貴重な体験をすることになりました。

坪内逍遙は、この境界の明治の文豪。

夏目漱石(1867~1916)著書に「虞美人草」「三四郎」があり、「明暗」の出筆中に胃潰瘍で永眠。

田山花袋(1872~1930)尾崎紅葉のもとで修行、国木田独步、柳田国男らと交わる。著書に「蒲団」「田舎教師」。

泉鏡花(1873~1939)明治半ばから創作活動を始め大正、昭和にかけて300編あまりの作品を生み出した。

尾崎紅葉(1868~1903)著書に「二人比丘尼色懺悔」「三人妻」「多情多恨」「我楽多文庫」を創刊。これら文豪の足跡を訪ねる旅でもありました。

神楽坂を上りきったところにある毘沙門、最後に訪れた赤城神社では偶然神主がおられ皆で謂れを聞くことになりました。

神楽坂の街は、細い横道に入るとフレンチやイタリアンレストランありの異色文化の色濃い文芸の街でした。

(埼玉県鴻巣市)

飯田橋駅西口改札口にて待ち合わせ、参加者13名。小雨のぱらつく中、飯田橋境界から神楽坂へ。

明治の文豪(夏目漱石、田山花袋、尾崎紅葉、泉鏡花等)が多数住まわれていた境界。多くの作品がここで書かれた。かくれんぼ横丁など迷路が多く、土地勘のない人にはどこをどう歩いているのか解らない感じがする。

漱石が揚場町から船に乗り日本橋猿若町の芝居見学をしたことや北原白秋の居宅に、泉鏡花が住んだことなど面白い話をいくつも聞くことができた。3時間ばかり散策して、最後は赤城神社にお参り。

散策後の懇親会には用があり出られず残念。今回の神楽坂散策を企画してくれたことに感謝。ありがとうございました。

(神奈川県横浜市)

初めて都内の散策に参加させて頂き、ありがとうございました。充実した資料と丁寧なご説明で、明治の文豪、芸術家や当時の神楽坂街並みを偲ぶ、大変興味深いツアーでした。

前日からの絵画展出展のため、懇親会に参加できなかったのが残念でした。